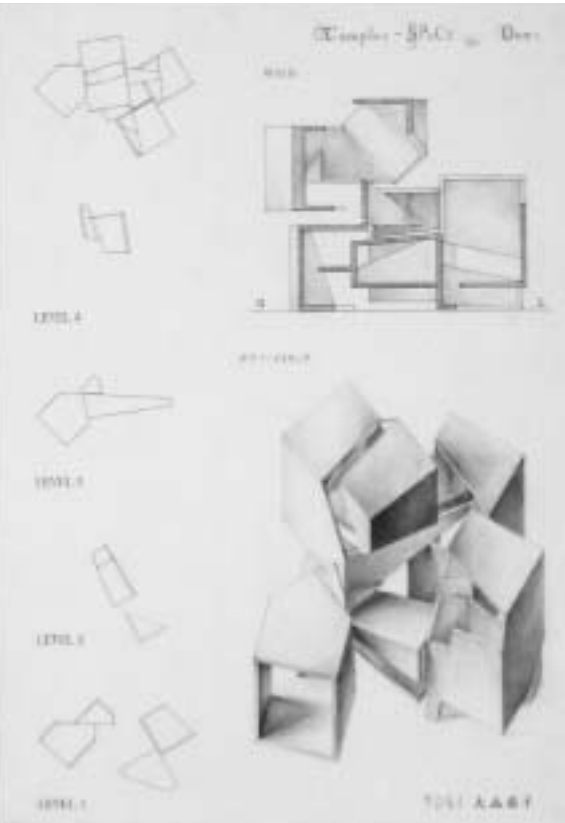


大森 紘子

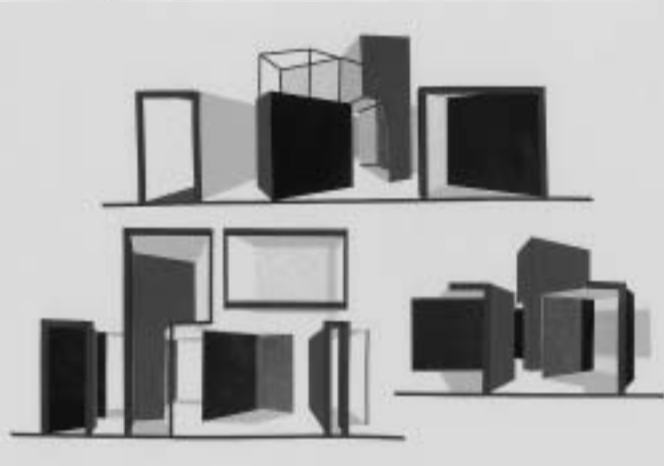


そこに空間を発見して行く作業
……相互に干渉し合う空間。
制作の過程においても製作された
ドローイングにおいても、体験される
であろう幾多の内部空間シミュレーション
が行われた結果、その複雑で音楽的な響き
を持つ空間構成の中に漂う、清々しい
空気まで感じとれる計画となった。
幾何学的な造形演習から始まった大森
さんの計画は、最終的にはそこに佇む「人」
の様態・使い方まで強くイメージ出来る
ものとなった点が高く評価された。

柳瀬 睦子

この課題では、階段やドアを気にせず、
人体寸法、動作寸法を考え空間を構築した。
その際、視覚的に楽しめ、見た目が極めて
シンプルである空間を意識した。そのため
に、主に、奥に広がる、または狭まるとい
ったような壁の傾き。と、一方向からなる
べく同じ色しか見えないように、というこ
とを考えた。また、その質感にもこだわ
った。用途などは特に決まっておらず、た
だ感覚的につくることができた課題だっ
た。

柳瀬 睦子



指導=田中 雅美

この課題は学生諸君にとって、初めての
創作課題である。日頃私たちの接してい
る空間は用途の必然性だけで出来上がっ
ている場合が多く、人の知性や感性の
琴線に触れる空間に出会うことは希で
ある。

この課題においては、空間や形態の組
立順序や機能性、有用性などの問いか
けを一時ペンディングにして、ダイレク
トに自分の思いや感性を表現してみよう
と言うものである。形態の組立はたぶ
んに偶発的ともいえる作業の繰り返し
であるが、主眼はその作業の中から自
分にとって興味のある空間を拾い上げ
ることにおかれている。いわば、「空間
の発見」である。

柳瀬さんの作品は比較的単純な多面
体の組み合わせによって構成されてい
るが、ヒューマンスケールで人が空間
の中に入り込んでいくときに見える視
界の展開や、材質感や色合いから受け
る感性を適確に受け止めている。変
化に富む空間の連続性は楽しく、作
品表現の完成度も高かった。

を分割することから始まり、その分割
においても、分割後に初めて形が明ら
かになるように、上面から下面へ約
90°回転させながら面を分割した。こ
れを再度、1回目の線と約90°交
わらせ同様に繰り返した。以上より
生まれた複雑な形を、4つの空間と2
つの渡り道路で構成した。それぞれの
独特な形から時間の経過と共に光の
パリエーションを楽しめる内部空間
が生まれた。

指導=田島 夏樹

4m×6m×9mの4個の直方体。その、
24(4×6)面を捻れながら辿る切断線
によって分割された断片を再構成し、

大森 紘子

この形へ至る過程は、まず何にも
捕われずに3×4×12の形

基礎製図法

第2課題

内部空間の把握と構成・表現

1年1組

担当=

- 柳田 武
- 本杉 省三
- 田島 夏樹
- 田中 雅美
- 山崎 敬三